

* 子どもの育ちを支えよう *



指差し



広場で指差しをする子たちが増えてきました。

手を開いて「手差し」(9~10ヶ月)だったところから 指差しへと発達していきます。(10ヶ月~1才)

この指差し「あれが欲しい」や「はい!」の表現以外に、「物の名前を知りたい!!!」という意味もあるんです! 次々と指差しをはじめたら、「どこ? 何が欲しいの?」「はいはい、あれが気になるのね」と指示語で流さずに「あはくるま、ブーブだよ」「あれはとけい、そはパイパイ、パイパイにわー!」などと伝えてみて下さい。ことばの認識がはじまる発達過程として「物に名前がある」と気付いてきます。どんなものに興味を持ち始めるのか、楽しんでいて子どもをみていて下さい。



お口ぽかんの子

遊んでいる時、絵本を読んでいる時、お口があいたままの子がいます。

口呼吸になる原因のひとつに、口周りの筋力が関係している場合もあると

いわれています。大きい子なら遊びの中で笛やラッパを吹くあそびをしてあげましょう。

口をすぼめて遊ぶことで、口周りの筋肉が使われます。小さい子の場合には、あ、ぷ、ぷ、ぷ、

にらめっこや手あそびの中で親自身も顔を動かして見せたり、子どもの顔を優しく舐めるあそびがおすすめです。

顔

口をすぼめて遊ぶことで、口周りの筋肉が使われます。小さい子の場合には、あ、ぷ、ぷ、ぷ、にらめっこや手あそびの中で親自身も顔を動かして見せたり、子どもの顔を優しく舐めるあそびがおすすめです。

おすすめ
IOBHS!

寝返りや、ずり這い前の赤ちゃんはどう過ごす? ねんね期のあそびの充実が土台になるそうです。



発達はやったかどうかのチェック項目ではなく、「毎日 たっぷり ぐっぐる」が大事です。

ヒジをついてあそぶ

ヒザをついてあそぶ

つま先をついてあそぶ

赤ちゃんの発達、私は健康診断の項目くらいしか知りませんでした。何気なく見える赤ちゃんの動きを、これを積み重ねること、ある日の「できた!!」につなげたり、いもいもも育つのでよいのでしょうか。その為に大事にするのが大人との関わり「あそび」です。もっともっと、もういっかい!!と「やっつけた!!」を積み重ねることが「育つ力」になるのではないのでしょうか。

赤ちゃんは日々の生活の中で 発見や経験をくり返し、発達を重ねることで体が自由に動くことを知っていくようです。その発見や経験になるのは、人や物への興味とあそびです。安心できる大人たちの中で、見ていたい、触りたい!! やってほしい!! が 充実される環境が必要ですね。広場の担当は産休明け保育経験者です。人見知りをはじめ前の生後2~3ヶ月頃 から安心してあそびに来て下さい。一緒に子どもたちの育ちを支えたい、楽しくあそび姿を私たち大人で見守っていきましょう。

